

令和4年度技術職員研修（第3専門技術群：物質・材料系）報告書

第3専門技術群長 工学研究科 佐々木 宣治
世話人 工学研究科 名村 和平

1. 研修の目的

第3専門技術群に所属する職員の多くは分析機器の維持管理、受託分析、操作方法指導業務を担当している。分析機器操作マニュアルの作成、分析報告書の作成、メールでのディスカッションを始めとする教育研究支援業務を外国人研究者・留学生に対して円滑に行うためには技術英語ライティングの能力が必要である。技術情報を明確、簡潔、正確に伝える英文作成法を学び、技術職員としての資質向上を図ることを目的とした。

2. 開催期間

令和4年9月1日（木）～令和5年3月1日（水）

3. 受講人数

32名

4. 受講者名簿

表1. 受講者名簿

No	受講期間	所属	氏名	所属専門技術群
1	9月1日～10月31日	人間・環境学研究科	酒井 尚子	第3専門技術群
2	9月1日～10月31日	理学研究科	阿部 邦美	第3専門技術群
3	9月1日～10月31日	化学研究所	藤橋 明子	第3専門技術群
4	9月1日～10月31日	防災研究所技術室	宮町 凜太郎	第2専門技術群
5	9月1日～10月31日	工学研究科	宇野 優衣	第3専門技術群
6	9月1日～10月31日	工学研究科	佐々木 宣治	第3専門技術群
7	9月1日～10月31日	工学研究科	植田 義人	第3専門技術群
8	9月1日～10月31日	工学研究科	藺林 豊	第3専門技術群
9	9月1日～10月31日	工学研究科附属 環境安全衛生センター	青木 健朗	第3専門技術群
10	9月1日～10月31日	工学研究科附属 環境安全衛生センター	大岡 忠紀	第3専門技術群
11	9月1日～10月31日	工学研究科附属 環境安全衛生センター	宮嶋 直樹	第3専門技術群
12	11月1日～12月31日	農学研究科	南部 優子	第3専門技術群
13	11月1日～12月31日	農学研究科附属農場	西川 浩次	第4専門技術群
14	11月1日～12月31日	フィールド科学 教育研究センター	中川 智之	第4専門技術群

15	11月1日～12月31日	ヒト行動進化研究センター	橋本 直子	第4専門技術群
16	11月1日～12月31日	化学研究所附属 先端ビームナノ科学センター	頓宮 拓	第1専門技術群
17	11月1日～12月31日	防災研究所技術室	三浦 勉	第2専門技術群
18	11月1日～12月31日	工学研究科	藤平 剛久	第2専門技術群
19	11月1日～12月31日	工学研究科附属 桂インテックセンター	多田 康平	第1専門技術群
20	11月1日～12月31日	工学研究科附属 桂インテックセンター	西崎 修司	第1専門技術群
21	11月1日～12月31日	工学研究科附属 環境安全衛生センター	日名田 良一	第3専門技術群
22	1月4日～3月1日	人間・環境学研究科	下野 智史	第3専門技術群
23	1月4日～3月1日	人間・環境学研究科	吉田 あゆみ	第3専門技術群
24	1月4日～3月1日	理学研究科	高谷 真樹	第3専門技術群
25	1月4日～3月1日	理学研究科附属 地球熱学研究施設	吉川 慎	第2専門技術群
26	1月4日～3月1日	農学研究科	吉岡 哲平	第3専門技術群
27	1月4日～3月1日	フィールド科学 教育研究センター	向 昌宏	第3専門技術群
28	1月4日～3月1日	フィールド科学 教育研究センター	山内 洋紀	第4専門技術群
29	1月4日～3月1日	防災研究所技術室	川崎 慎吾	第2専門技術群
30	1月4日～3月1日	工学研究科	名村 和平	第3専門技術群
31	1月4日～3月1日	工学研究科	楠田 育成	第3専門技術群
32	1月4日～3月1日	工学研究科	中池 由美	第3専門技術群

5. 研修概要

eラーニングを使用する研修を実施した。一般社団法人日本能率協会の技術英語ライティングに関するeラーニング講座「技術英語コース（日本技術英語協会）」の受講希望者を募り、32名から申込があった。講座を6カ月間受講可能なログインIDを11個、税込14万2780円で購入し、1名あたりの受講期間を2ヶ月間に制限した上で、1個のIDを最大3名で使用させることで、全ての受講希望者に講座を受けていただいた。受講完了後に研修参加アンケートに回答することで研修修了とした。1個のログインIDを複数人で使用することについては、一般社団法人日本能率協会の許可を得た。当講座は、技術情報を明確、簡潔、正確に伝える英文作成法を解説するセミナー動画と理解度テストで構成されていた。セミナー動画で使用するテキストは、PDF形式でダウンロード可能な状態で提供された。講座の著作権が一般社団法人日本能率協会に帰属することから、内容の詳細に関する報告は記載しない。

6. 研修参加アンケート結果

全ての受講者がアンケートに回答し、研修を修了した。97%（31名）の方が受講について良い手ごた

えを持ち、業務への有益度については、100% (32 名)の方が何かしら役に立ちそうだという回答を残しており、実施の成果はあったと考えている。「今後の海外の研究者とのコミュニケーションに自信を持って臨めそう」「人事部主催の英語研修とは異なる切り口の内容で有意義だった」「以前から学習したかった内容だった」「適度な難易度で、くじけず取り組めた」など好意的な感想が寄せられた一方で、「1つのIDを複数人で使用したため、学習進捗状況が把握しづらく期待外れだった。事前に分かっていたら受講しなかった」「予想していた内容と違った」などの意見も挙げられた。限られた予算の中、受講期間を区切って1つのIDを複数人で使用する方式で研修を実施したが、本eラーニング講座は学習進捗状況をリセットできない仕様で、先に受講した方の学習進捗状況が後の受講者にも引き継がれ、不満の原因を作ってしまった。研修案内に記載する内容の充実も今後の課題としたい。

次年度の研修開催時期については、7月～9月、1月～3月、11月～12月の順で希望が多く、昨年度の研修時のアンケートと同様の結果になった。次年度の研修内容について第3希望まで聞いた結果については、実験などの実習(28票)、eラーニング(26票)、施設見学(20票)、教員講義(17票)、技術職員発表(5票)の順が多かった。昨年度のアンケートではeラーニング、教員講義、実験などの実習、施設見学、技術職員発表の順で希望が多かったが、今年度は実験などの実習を希望する意見が順位を上げた。その他の意見として、英会話実習を希望する声も挙がった。第1希望に限った結果は、eラーニング(12票)、実験などの実習(11票)、教員講義(6票)、施設見学(2票)、技術職員発表(1票)の順が多かった。来年度の企画の参考情報として残す。

7. 総括

昨年度の研修時のアンケートで開催希望が最も多かったeラーニング研修を、テーマを変えて昨年度に引き続き実施したところ、昨年度の28名より4名多い32名に参加いただけた。受講者の所属専門技術群については、昨年度は第3専門技術群が12名、他専門技術群が16名であったのに対して、今年度は第3専門技術群が20名、他専門技術群が12名であった。第3専門技術群からの受講者の割合が、昨年度の43%から今年度は63%と、20%増加した。第3専門技術群所属の職員にとって魅力的な研修テーマであったことを示唆している。多くの受講者が受講について好意的な評価、今後の業務に役立つとの評価を下しており、eラーニング研修の継続を希望する声や、今後も学習を継続したいといったモチベーションの高い感想もあり、技術職員としての資質向上を図る研修実施目的は達成できたと考えている。受講者の技術英語ライティング能力を底上げすることで、技術職員の教育研究支援体制の強化に貢献した有意義な研修であったと言える。